

夢に向かって

国見町を知ってもらいたい——

佐藤 孝信 さん (県北中3年)

僕の夢は、国見町にゲストハウスを建てることです。

日本人だけでなく、外国人にも利用してもらって、たくさんの人たちと交流してみたいです。

ゲストハウスを建てたいと思ったきっかけは、中学校の校外学習で、町には道の駅以外に宿泊施設がないということを知ったことと、放課後塾ハルのプロジェクトで、京都府宮津市の「宮津ゲストハウス・ハチハウス」に宿泊したことです。ハチハウスはとても雰囲気の良いゲストハウスで、ぜひまた宿泊したいと思っています。

夢を叶えるために、今頑張っていることが3つあります。1つ目は、いろいろな事にチャレンジして、積極的にリーダーを務めるようにしていることです。部活動では副部長を務めて、部員をまとめながら良い結果を残せるように頑張っています。2つ目は、外国人と交流するために英語の学習を集中して頑張っています。将来、絶対に必要になると思うので、しっかり学んで身に付けたいと思っています。そして最後は、いろいろな所に行ったり、調べたりして町の良さを再確認しています。他の町の良いところを知ると、国見町にもこんなに良い所があったんだと、改めて感じるができます。

夢が叶ったら、たくさんの人が気軽に集まって、いつでも遊びに来てもらえる、温かい雰囲気のゲストハウスにしたいと思っています。そして、町の中心になるような交流の場にして、たくさんの人に国見町を訪れて欲しいです。



「国見町のことをもっとたくさんの人に知ってもらいたい、国見町が大好きなんです！」と目を輝かせて話す佐藤孝信さん。
夢の実現に向かって、頑張る姿に頼もしさを感じることができました。

町長
コラム



ま
真こらむ

【第22回】

欠けていたこと

住民説明会は、国見町という行政組織の責任者として、一連の問題について町民の声を直に聞き、真正面から受け止めるために行いました。厳しい質問と意見が続出。これは今回の問題に対する引地の判断への疑問符。当然に当事者として反省しています。申し訳ありませんでした。二度とこのようなことを起こさないよう、第三者委員会に検証をお願いし、問題点を洗い出し、しっかりした体制やルールを作ることとします。

自問自答の中で思ったことは「自身の考えを相手に理解してもらうためにはどうしたら良いか」ということ。これまでは相手の話を聞きながらも、説明を尽くせばお互いに理解し合えるものと思っていたけれど、それは間違いと。自身の話を理解してもらうためには、先に相手の話を十分に聞くことが大事ということ。至極、当たり前のことと。

これは町政運営にも当てはまること。この職に就いて2年半余り、新型感染症の中、こじんまりと行ってきたタウンミーティングや町内会要望の方部会などは、確かに町民の声を聞く場ではあったけれど、十分ではなかったのではと。また、国見町が抱える課題への施策対応はしてきたつもりだけれど、それが本当に町民の幸せ感を上げるために役立ったのだろうか。

5月には新型感染症の取り扱いが見直されます。原点回帰。施策の源は町民にある。これまで遠慮していたタウンミーティングを全町で行おうと考えています。

引地真